昭和39年11月10日第三種郵便物認可　昭和41年4月5日国鉄東局特別扱承認雑誌第2343号　昭和43年4月1日発行　第5巻第4号通巻第44号（毎月1回・1日発行）

月刊漫画ガロ

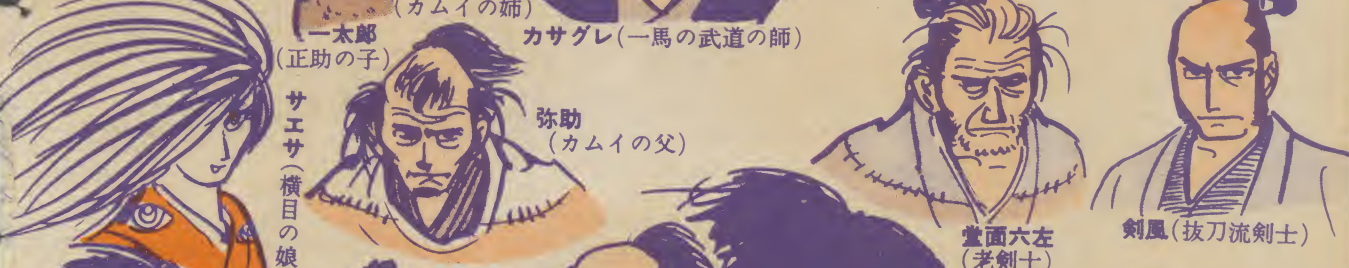
No.44
1968
4月号

カムイ伝㊵　赤目プロ作品　白土三平

鬼太郎夜話⑪　水木プロ製作　水木しげる

カムイ伝
第40回
赤目プロ作品
白土三平

登場人物

正助(百姓・元下人)
カムイ(忍・元非人)
玄蕃(目付の弟)
橘軍太夫(大目付)
三角重太夫(城代)
領主(日置領)
ダンズリ(正助の父)
一太郎(正助の子)
ナナ(カムイの姉)
カサグレ(一馬の武道の師)
一馬(目付の子)
宝監物(江戸家老)
大蔵屋(御用商人)
サエサ(横目の娘)
弥助(カムイの父)
堂面六左(老剣士)
剣風(抜刀流剣士)
クシロ(漁師)
キギス(横目の下人)
横目(非人頭)
草加竜之進(元藩次席家老遺児)
笹一角(元藩剣法指南役)
手風(公儀隠密小頭)
苔丸(非人・元百姓)
右近(浪人)
アテナ(剣客の娘)
ト伝(隠密の一人)
小六(狂人)
夢屋(商人・元流人)
赤目(抜忍)
シブタレ(タレコミ屋)
仁太夫(江戸勧進頭)

（前回まで）

カムイ伝㊵

士、農、工、商、エタ、非人、といった身分差別制度は、封建支配者たる武士階級の、おのれらの権力維持と搾取の恒常化を図るところから定められたものであった。従って当然のことながらこの制度による受益者は支配者に集中するしくみであり、逆に、その分だけ武士階級に属さない人々の上に負担や圧力となってのしかかるものであった。とりわけ、この制度の下で、最下層の身分とされたエタ、非人といった人びとにあっては、その立場や境遇は文字通り人並みのものを許されず、著しい蔑みや、迫害、また厳しい使役に耐えねばならぬ日々を余儀なくされたのであった。

そこで、生まれつきに定められた身分とそれによって人間としての自由を抑圧された状態からの脱出は、人びとの希いであったが、実際は、支配者の圧力は人びとにこの希いさえ抱かせないほどの厳しい法度や掟によって二重・三重に人びとを呪縛していたのであった。その中で、おのれの置かれた社会からの飛躍に成功した数少い者として非人**カムイ**があった。彼は、人間らしい自由と誇りとを獲得するために、剣の道を学び、強くなることによっておのれの夢の達成をはかり、やがて公儀隠密団に属す忍びとなったのであった。しかしながら、人間としての復権を夢見てひとつの社会から別の社会へと飛躍し得たカムイも、やはり忍びの社会に在ってみれば、そこにはさらに厳しい掟と苛酷な運命が待ち受けていたのである。

幕府では、かねてより日置藩の取り潰しを狙いながらも、藩が重大な秘密を握っているために手を下せないでいたが、その秘密探索の任務をカムイは帯びたのであった。これによって彼は、かつてない運命の一大危機に立たされたのであった。つまり、いまや、その秘密を握り得ても、握り得なければ得ないで、やはりこの種の任を負った忍びの自明の末路として抹殺される羽目に立ち至ったのである。ここでカムイが、この壁を突き破るとすれば、それは彼の忍びでの師**赤目**がそうしたように抜忍となるより道はない。が、伊賀広しと言えども、赤目を除いては、かつて抜けおおせた忍びはない。この至難な、極微な確率の中で、彼もおのれを賭けねばならなかった。

だが、ついに日置藩の隠し持った秘密はカムイと小頭**摺の手風**とによって解き明かされた。"風鳴りに眠れる六蔵のうちに有りて""日を仰げば乱立ちぬ"、この秘密の鍵は、それぞれ日置藩江戸家敷と城代家老屋敷の亀の裡に隠され、そして当の秘密は、ムクゲ谷の蔵六陣中深く秘されていたのであった。すなわち、秘密というのは、驚くべきことに幕府の大御所である徳川家康の出身が賤民であることを証す証文及び由緒書だったのである。まさに、日置藩が幕府といえども手を下し得ない厄介な藩である所以であったが、ことの重大さは、これによって、士、農、工、商、エタ、非人といった身分制度が、その根底からくつがえされることであった。

ともあれ、その証文の紙っぺラによって、一城一国が左右されると同時に、そこに幕府の命さえかかっている、その一大秘事をいまやカムイは知ってしまっていたのだった。このことは、彼がかつて予見し、怖れたようにおのれの死を意味するものであり、これを逃れる唯一の方法は抜忍となる道よりほかになかった。そこで、カムイは、敢えてこの秘事を小頭摺の手風に知らしめ、彼をしてもはや抜ける以外に術のない窮地に陥らしめたのであった。

表紙絵・白土三平

カムイ伝が第1回から入手できます！

愛読者の渇望に応えてバックナンバー再版

第1冊～第6冊（第1回～第12回）頒布中！

早くも三年余の歳月を数えた白土三平先生畢生の
大作「カムイ伝」を第1回からこの機会にぜひ！

—カムイ伝再版促進会—

カムイ伝の第1回から第12回までを、6分冊にして再版しました。
第1冊（カムイ伝①②）から第6冊（⑪⑫）まで全巻頒布中です。
カムイ伝の再版（第一次）は、一応これでおわりました。これは、
希望者頒布・限定出版で、書店では一切発売しておりませんので、
誌代（送料含む）を添えて、直接下記へお申込み下さい。
なお、5分冊とも「ガロ」の本誌と同じB5判です。

頒価 各冊 230円 〒20円（切手も可・但し1割増）

申込先・東京都千代田区神田神保町1－55　青林堂内　カムイ伝再版促進会

切手代納の場合は、なるべく15円切手をお送り下さい

〈ガロ〉特別セール案内

バックナンバーの部

今、全国で爆発的な人気を呼んでいる白土三平の大河マンガ＜カムイ伝＞は39年12月号から本誌に連載されていますが、これをはじめからお読み下さる方々のために、バックナンバーの特別割引セールを実施中です。

〈ガロ・在庫セット〉

41年4月号～42年1月号

10冊・1組 特価 1,300円

（〒1組・100円）

セットのほかに、1冊でも分売いたします。ただし、41年3月号までは品切れです（1冊送料共150円）

新刊予約の部

月刊雑誌“ガロ”を、少しでも安く、しかも続けて読みたい方々のご要望にこたえて、次の通り特別予約セールを実施いたしております。

〈Aコース〉　6カ月分予約前納の方には、800円に割引の上、「白土三平傑作選集」(130円）を無料進呈します。

〈Bコース〉　1カ年分予約前納の方には、1,600円に割引の上、白土三平の単行本を1冊無料進呈いたします。

★郵便料金の値上げに伴い、今後のご予約には送料(Aコース·100円、Bコース·200円)を申し受けることになりましたのでご諒承下さい。

申込先・東京都千代田区神田神保町1の55　青林堂

目安箱㊲

「市民」から「野次馬」へ

——原子力空母阻止行動について——

上野昂志

明澄な仮りの闘かいに死んだ
　あとおれは
もう一度沈黙に抗い
沈黙に生きる
もう一度言葉を信じない
おれは言葉でそれを告げる
　　黒田喜夫「沈黙への断章」

魯迅が使っていたという「これまで印刷されたことのない辞典」には、「官」という字の下に「大官の親戚、友人および奴僕」という説明が、「城」には「学生の出入を防ぐために造られた高くて堅固な煉瓦の壁」という説明が、「革命」には「洪水を農地へ導入し、飛行機に爆弾を積んで『匪賊』の頭上に投下すること」という解釈がしてあったらしいが、私のもっている同じような辞典も、現在の言葉を知るためには結構役に立つ。これによると、「放水車」には『催涙液を混ぜた水をデモ隊にかけるための自動車』という説明があり、わきに小さく「時には消火のためにただの水をまくこともある」と注がしてあるし、「国会」という項目では、「国家権力の恥部をかくすバタフライ、一般には聖域と称す」と書いてあった。

1月21日のラジオで「これからはデモ警備のために野次馬対策も考えねばならない」と放送しているのを聞いたので、早速「野次馬」という字を調べてみたら「デモ隊をなぐる時邪魔をする者たち」という説明がしてあった。「ははあ」と合点しかけたら「一般市民との区別がつきにくい」という但し書が目についたので又首をひねってしまった。そこで「市民」というところを開いてみたら不思議なことに、説明があるようなないような、どうもはっきりしない。「この辺が、これまで印刷されたことのない辞典」の奇妙なところで、ぼんやり眺めていると何やら書かれているようでもあるし、そうかといって気をつけて見つめると影のようなものしか見えない。だが、手持ちの辞典だけで全て間に合わせようというのが虫がよすぎるのかもしれない、と思いなおして既に印刷されたものを調べることにした。

たとえば、1月17日に佐世保で機動隊になぐられて重傷を負わされた朝日新聞の記者は、「これまでこの種の事件では必ず実行されている『市民のみなさん、避難して下さい』という警告はなかった。このため、市民病院附近の市民は、不意をつかれて逃げまどった」とその手記（朝日新聞1月17日夕刊）に書いている。あるいは、『朝日ジャーナル』1・28号の『暴徒になるひまのなかった学生』という現地ルポは、「警備の行きすぎ」

に対して批判的な視点から書かれているが、結局、「しかし、彼ら〈学生〉が『この道しかない』と思いつめての行動様式には、わたしたちを含めて大多数の人間はついて行けない。それは市民社会では受入れられないものなのだ。」という「市民社会」の論理に収斂されていくのである。

警官に追われて逃げまどうことにおいて、その一人一人の人間の生身の反応において、「市民」とデモの参加者との間に何の違いもありはしない。だが、デモ隊との区別の上で、「市民のみなさん、避難して下さい」という警告がされる時、あるいは、そのような警告をこちらがわから求める時、「市民」はデモ参加者とは違ったものになる。と同時に、生活者大衆の一人としてそこにいた人間は、「市民」として浮遊していくのである。言ってみれば、ただの人間から「市民」という言葉へ、のっぺらぼうへ、離脱していくのである。「朝日ジャーナル」記者の、「警備の行きすぎ」と学生の闘争に対する批判も、この生活者大衆から上昇的に離脱した「市民」の論理によって成立したものであることはいうまでもない。

「朝日ジャーナル」の記者ばかりではない。1月21日の社共統一集会で、共産党は「反代々木系全学連の学生が道をふさいで市民に迷惑をかけているのをどう思うか」と警察側の意見を求めたということだが〈朝日新聞1月22日朝刊〉、この革新政党の「市民」意識には警察も泣いて喜んだに違いない。

だが、羽田闘争に参加した学生の育英資金打ち切り、飯田橋での大量検挙、博多駅での身体検査にはじまった国家権力の弾圧攻勢とエンタープライズ入港という力の誇示は、この幻想としての「市民社会」を突き破ってしまった。ここに至っては、「市民のまきぞえもやむをえない」〈赤沢国家公安委員長〉し、「治安を守る警官の行動と学生の暴力を一緒にされては困る」〈佐藤首相〉のである。更に、1月22日の朝刊は、福岡県警が九大教養部学生会館の捜索で、学生が集めた市民の署名簿を押収したことを報じているが、このことは、国家権力が「市民」というヴェールなど問題にしていないことを物語っている。

しかし、このような国家権力の直接的な暴力に対抗する動きは、デモの周辺を埋める「野次馬」と呼ばれる生活者大衆の側から秘かに生まれつつあるように思われる。1月21日の佐世保橋附近では、時にはデモの隊列に加わり、時には警官から学生や青年労働者をかばう人たちがいたという。この人たちの行動は、単に警察の「警備の行きすぎ」に対する「市民」の反発や、血を流して闘う学生、青年労働者に対する「同情」だけから生まれたものではない。それは、生活者一人一人の内部に、「言葉にはならない叫びとして重く澱んでいる、秩序をのり超えようとする意志に根ざしているはずだ。「市民」というようなのっぺらぼうな顔からは窺い見ることのできない重い意志で、それはあるだろう。それが、デモ隊の内部を貫いている国家権力を否定し超えようとする意志と一瞬交差したところに、「野次馬の妨害」行為として現出するのである。その時彼らは、「市民」とか「野次馬」とか「暴徒」とかの様々な言葉を一挙につき破って、ただの人間として立っていたのではなかったか。

（68年1月23日）

ガロ/白土三平/水木しげる を論じた批評を収録！

ガロの世界

発売中！

定価 150円・〒30円

A5判・102頁

ガロ創刊以来、各新聞・週刊誌・雑誌・同人誌に発表されたガロ関係の論文・記事を読者の要望に応えて一冊に収録いたしました。部数に制限がありますので、お早めにお近くの書店か、直接当社宛にお申込下さい。

本書の一部内容

鶴見俊輔「ガロの世界」
[illegible]「白土三平の世界」
佐藤忠男「白土三平の漫画発想」
[illegible]「残酷マンガと唯物史観」
渡辺 [illegible]「子供マンガの芸術論」
[illegible]新聞「白土三平論序説」
日本読書新聞「白土三平氏を訪ねて」
[illegible]新聞「修行者と白土三平」
佐々木[illegible]「ロマンの回復」
日本読書新聞「水木しげるインタビュー」
週刊大衆「幻想と怪奇を描く水木マンガ」
朝日新聞「泥絵具の幻想を復活」
[illegible]「水木しげるのグロテスクな世界」

東京都千代田区神田神保町1－55 **青林堂**「ガロの世界」係

水木しげる傑作集

特価頒布中！

5冊セット 送料共800円
（水木しげるカラー色紙書つき）

●不死鳥を飼う男
不死鳥を飼う男・安い家

●手袋の怪
手袋の怪・大人物・群衆の中に・水晶球の世界

●釣り落した魚
約束・草・釣り落した魚

●空のサイフ
空のサイフ・船・聖なる輪・太郎稲荷

●ああ無情
ああ無情・神変方丈記・神様・不老不死の術・いぼ・幸運の甘き香り・はかない夢・剣豪とぼたもち・闘牛・こぶ

各冊・A5判・128頁（東考社版）

申込先・東京都千代田区神田神保町1－55 青林堂

新人作家募集！！

「ガロ」編集部では、優秀な新人作家を募集しています。どしどしご応募下さい。

――〈作品投稿規定〉――

① 題材・テーマ・モチーフ・枚数自由。
② 作品の独創性を第一とする。
③ なるべくB3判の紙に、必ずタテ27.3cmヨコ18.2cmに書くこと。コマ取り自由。
④ 墨汁または製図用黒インキを使用し、ウス墨やウス色はつけない。
⑤ セリフなどの文字は、エンピツで一字一字正しく読みやすく書くこと。
⑥ 締切日は設けず、到着次第「ガロ」編集部において審査する。
⑦ 入選作品は「ガロ」誌上に掲載し、原稿料を支払う。入選作品の版権は、青林堂に帰属する。
⑧ 応募原稿は一切返却しない。
⑨ 送り先は、**東京都神田神保町1の55 株式会社青林堂**「ガロ」編集部